

## 1 新機関誌：脳神経血管内治療（Journal of Neuroendovascular Therapy, JNET）の配布について

創刊に当たって、会員名簿に登載されているすべての会員（正会員、名誉会員、賛助会員）に配布しました。今後は、年会費納入者および前年度までの年会費を完納している会員に対し、登録された住所（海外在住者は国内連絡先）に翌年のJNETを配布します。

NPO法人日本脳神経血管内治療学会の会計年度は10月から9月ですので、例えば2008年に発行されるJNET（Vol.2）は、2007年度会費（2007.10-2008.9）を納めている会員および未納者のうち2006年度会費（2006.10-2007.9）まで完納している会員に配布します。機関誌が届くように、送付先を変更する会員は異動届を事務局まで提出して下さい。

## 2 電子メールアドレスの活用について

平成19年11月13日の理事会で、会員への情報提供手段として、学会ホームページ・機関誌JNETに加え、電子メールを積極的に活用することが決まりました。この3つ以外の情報提供を原則としてなくすことになり、速やかな情報提供を経費を掛けることなく行うことが可能になります。会員各位のご理解をお願いいたします。なお、配信する情報を下記のカテゴリーに分けて送付しますので、チェックボックスにチェックを入れて下さい。

- 1 JSNET 学術総会、議事総会、理事会、各種委員会の会告、出欠確認などの会務
- 2 JSNET 理事会が承認した学術調査の案内
- 3 JSNET 会員が運営、関与する学術集会、セミナーの会告
- 4 JSNET 広報渉外委員会に申請され受理された他組織からの学術集会、セミナーの会告
- 5 JSNET 広報渉外委員会に申請され総務委員会にて承認された企業からの情報（製品情報、各種セミナー情報、トピックスなど）

メール配信を運用するにあたっては個人情報の保護の観点から、事務局および広報渉外委員会は、会員情報の守秘義務を遵守し、目的以外には使用いたしません。また、配信する情報は学会が認めたもののみといたします。学会事務の合理化および経費削減のため、機関誌への公告、ホームページ上への公告、メール配信を会員への情報発信の手段といたします。時機を逸せず情報を発信するために、できる限りすべての会員にご登録いただきますようお願いいたします。

これまでご登録いただきました会員のメールアドレスにメール配信開始のお知らせを配信します。メール配信の希望の有無、受け取りたい情報のレベルをご登録下さい。メールアドレスの登録がまだお済みでない会員や学会からのメールが届かない会員は、JSNET ホームページ (<http://www.jsnet.umin.jp/>) の会員業務画面上の作成する「メールアドレス登録のお願い」をクリックしていただき、登録画面にてご登録下さい。今後は、入会時および異動届にて意向を確認するようにいたします。

## 3 登録研究へのご協力をお願い

カテーテルインターベンション（IVR：interventional radiology）は、身体に負担が掛からない低侵襲治療の代表として近年急速に発展普及している治療法で、脳領域においてもIVR（脳血管内治療）は器材の進歩と技術の開発により適応は大きく広がり、脳神経疾患の治療法として欠くことのできない基本的な治療手段となっています。実施症例数は増加の一途をたどっていますが、特殊な器材を放射線機器（血管撮影装置）の下で取り扱う治療であり、高度な技術と経験を要するため、術者の教育と治療の安全性の確保に社会の関心が高まっています。安全確実に治療を行うための標準的治療の確立および術者および治療スタッフの教育を含めた実施環境に関する一定の指針作りが急務の課題となっていることを受け、平成17年度に厚生労働省の循環器病研究委託費事業に脳神経領域における「カテーテルインターベンションの安全性確保と担当医師の教育に関する指針（ガイドライン）作成に関する研究」が採択されました。IVRの特徴として、機器器材および技術革新のスピードが速く、論文を中心としたいわゆるクリニカルエビデンスを基にしたガイドラインでは、治療の安全性と術者教育に関する実質的な指針になり難いという側面があります。そこで、指針（ガイドライン）作成の基礎資料として、国内で行なわれた治療症例の実施内容および合併症の頻度と程度、術者の習熟度等の実態を調査する登録研究を行うことにいたしました。国内の脳血管内治療のデータ管理システムが整備され、種々の臨床共同研究を進める上での基盤を確立することも可能となり、本登録研究の意義は大変深いと考えております。患者さんの個人情報をもとより、登録された専門医に関する個別の情報も、独立したデータセンターが管理するシステムを構築されています。2006年11月の理事会にて、この登録研究JRNET (Japanese Registry of Neuroendovascular

Therapy)にできる限り多数の専門医が参加していただくことをお願いすること、及び今回の指針作成が脳血管疾患の治療全般に密接に関連した事業であることに鑑み指導的立場におられる専門医指導医認定委員のお力を拝借するため研究協力者としてご参加いただくこと、が承認されています。今後も各種の調査をお願いすることになるとは思いますが、脳神経血管内治療を通じて社会に貢献するという本学会の目的を達するためには、常に現状をできるだけ正確に把握しながら、担当医の育成と生涯教育を充実させる必要があります。詳細は、学会ホームページに掲載されますので、会員（特に、専門医）各位のご協力をお願い申し上げます。

#### **4 Asian-Australasian Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology**

会長の Michael Mu Huo Teng 先生が JSNET2007 の Faculty として来日され、2008.4.5-8 に台北で開催される会議が案内されました。学会 WEB に情報を掲載しています

#### **5 WFITN(World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology)**

の副会長に瓢子敏夫先生が選出されました。次回の WFITN (10th Congress)は、2009 年に Montreal, Canada で開催されます

#### **6 特定非営利活動法人日本脳神経血管内治療学会 2007 年度総会**

平成 19 年 11 月 16 日（金）（14：00-14：30）

神戸国際展示場（神戸市中央区港島中町 6-11-1）

委任状および出席者が、会員総数の 2 分の 1 を越え、総会は成立した  
議案

1 開会

2 議長、議事録署名人指名

3 物故会員報告、黙祷（名誉会員 松角康彦氏）

4 第 22 回日本脳神経血管内治療学会総会報告

5 第 23 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会総会報告

6 事務局報告（資料 1）

7 2006 年度決算報告

8 2007 年度予算説明

9 専門医制度事務局報告（資料 2）

9 各委員会報告

総務委員会

財務委員会

機関誌編集委員会

国際委員会

広報渉外委員会

医事社会保険委員会

教育委員会

学術委員会

専門医制度委員会

専門医指導医認定委員会

倫理委員会

法務・医療安全委員会

選挙管理委員会

将来構想委員会

地方会整備委員会

10 次期会長挨拶

11 次々期会長挨拶

12 次々期会長候補承認および挨拶

理事会で選出された次々期会長候補、中原一郎先生を副会長（次々期会長）に選任

13 AAFITN2008 の案内

総会および 11 月 13 日に開催された理事会の内容は、学会ホームページに掲載します

## 7 学術総会報告

2007年11月14日から17日までの4日間、神戸国際会議場において、第23回日本脳神経血管内治療学会の総会が行われました。第23回総会はNPO法人に移行後初めての総会であり、会長が掲げたテーマは「社会に貢献する脳血管内治療—発展と普及を目指して」でした。サブタイトル「発展と普及を目指して」には、教育研究を担う中心的施設に症例を集中させることと、より広く治療機会を提供し所定の訓練を積んだ担当医に活躍の場を確保することをどう整合させ、持続的な発展をどう計るか、専門医制度はどんな方向を目指すべきか、を考えながら、どう社会に貢献するかという意味を込めたと会長挨拶にあります。

第1日目と第4日早朝に2回ライブデモンストレーションがあり、4つのシンポジウム、ベーシックとアドバンス2コースのContinuing Education Program(CEP)、機器展示会場でのハンズオンティーチングセミナー、特別報告、一般演題(口演・ポスター)、コメディカルセッション等も企画され、4日間の会期となりましたが、参加者は中間集計で招待44(国外15、国内29)、役員・一般1,256、コメディカル207、運営スタッフ40、企業展示250、合計1,797名に達しました。

### 第1日目

メインホールの正面には、大きな舞台がくみ上げられ、いつもと違う会になる予感がありました。わくわくするオープニングビデオの後、坂井会長が開会を宣言し、4日間にわたる総会が始まりました。初日はライブデモンストレーションと海外演者によるミニレクチャーが行われました。ライブデモは神戸市立医療センター中央市民病院と先端医療センターから、脳動脈瘤塞栓術4件、頸動脈ステント留置術3件、鎖骨下動脈ステント留置術1件が中継され、会場と討論しながら治療はすべて順調に進行し、多くのことを学ぶことができました。また症例の討論には、Dr Vinuela (USA), Dr Moret (France), Dr Lylyk (Argentina), Dr Shin (Korea), Dr Leonardi (Italy), Dr Siddiqui (USA), Dr Teng (Taiwan), Dr Tournade (France), Dr Wakhloo (USA), Dr Jianmin (China)ら、海外演者らが加わりました。

### 第2日目

朝7時からCEPが行われました。今回のCEPはベーシックコースとアドバンスコースがあり、初日は各々6つの前半の講演がありました。早朝にもかかわらず両コースとも満席となり、参加者の熱意が感じられました。9時からはシンポジウム1「破裂脳動脈瘤：離脱型コイルを用いて10年、これまでの歩みと結果検証、そしてこれからの展望」が行われました。この中でDr MolyneuxによるISAT最新データの紹介、本邦のトップセンターでの周術期管理に関するアンケート結果、長期成績等が報告されました。また血管内治療医吉村紳一先生からみた治療困難例や外科医永田 泉先生からみた治療困難例に関する講演、適応拡大の展望に関する講演が村山雄一先生からありました。シンポジウムの後に、Dr Vinuelaによる「GDCの開発と発展」に関する招待講演がありました。午後はシンポジウム2「無症候性未破裂脳動脈瘤塞栓術の血管内治療の功罪」が行われました。UCAS Japanの最新データが報告の後、トップセンターでの未破裂脳動脈瘤塞栓術に関する合併症と有効性、治療困難例に関する講演が松丸祐司からあり、短期的な治療成績はおおむね良好であることが報告されました。また外科医小川 彰先生からのコメントとDr Saatciによる本邦には未導入のデバイスによる最先端治療に関する講演がありました。一般講演と並行して、ミニシンポジウムとして「小児脳血管内治療」と「硬膜動静脈瘻に対する経動脈塞栓術」があり、集中的な討論が行われました。イブニングセミナーでは「会心の治療再び」のテーマで、3年ぶりに会心の治療の披露が行われ、兵頭明夫先生が最優秀賞を受賞し懇親会で表彰されました。

### 第3日目

2日目と同じく朝7時よりCEPの後半の講演がありました。2日目と同様、ほぼ満席でした。9時から、シンポジウム3「超急性期虚血性脳卒中に対する血管内治療」が行われ、rtPA認可後の血管内治療の役割が論じられました。理事長講演では、滝和郎先生がCAS承認に関する経緯と今後について講演され、会長講演では、坂井信幸先生が「勝ちに不思議な勝ちあり。負けに不思議な負けなし。」という言葉を紹介し、多くの治療経験から、独りよがりにならず行うべきことを着実に行っていくことの重要性を話されました。午後は、2006年徳島総会での表彰者、庄島正明先生・伊藤大輔先生・津本智幸先生・山家弘雄先生・庄司友和先生が、前年度表彰者講演を行いました。また一般講演と並行し、ミニシンポジウムとして頭蓋内ステント留置術が討論されました。さらにポスター発表と並行し、診療放射線技師によるミニシンポジウム「インターベンションを安全に行うために」が行われました。会員懇親会では、ポスター賞の表彰式が行われた後、血管造影装置メーカーによる「ワークインプログレス」として、血管造影装置の最

新技術と将来についてのプレゼンテーションがありました。

#### 第4日目

最終日は、7時より新しく薬事承認された Angioguard XP を用いた頸動脈ステント留置術が2例ライブデモンストレーションされました。脳血管内治療医に加え、血管外科医、循環器内科医も参加し、新しいデバイスの正しい使用方法について討論が行われ、その安全性が認識されました。シンポジウム4は「CAS時代を迎えた頸動脈狭窄症の治療戦略」で、プラーク診断、合併症の検討、治療選択、術者トレーニングなど、より安全な血行再建に関する集中的な討論がおこなわれた。また医薬品医療機器総合機構の池田氏より、行政の立場からの安全な治療推進のための承認過程の話があった。最後に国立循環器病センター総長の北村惣一郎先生から、多領域が関与する新しい医療技術を展開するために、我々医師が何を成すべきかをご講演いただき、素晴らしい本年の総会の最後にふさわしい幕切れでした。シンポジウムが終了後、坂井信幸会長により、本学会スタッフへの感謝の意と閉会の宣言があり、その後さらに CEP の2回目の講演と市民公開講座が行われ、17時にはすべてのプログラムが無事終了しました。(文責、松丸祐司)

#### JSNET2007 表彰者

##### -1 ポスター賞

##### 医師部門

##### 金賞

PA17-117 新保 淳輔 新潟大学 脳神経外科

海綿静脈洞部硬膜動静脈瘻の経静脈的塞栓術後に発生する二次性硬膜動静脈瘻の臨床像

PB01-211 高尾 洋之 東京慈恵会医科大学第三病院 脳神経外科

脳動脈瘤のサイズ計測ソフトの開発

PB02-218 津本 智幸 ルーズベルト病院 血管内外科

実験動脈瘤モデル (canine bifurcation aneurysm model) の自然経過について

PB16-319 高橋 聡 秋田大学 放射線科

頭蓋内硬膜動静脈瘻～osseous type の検討

PB22-359 野越 慎司 東京都済生会中央病院 脳卒中センター、脳血管内治療科

内頸動脈ステント留置術における高次脳機能の検討

##### 銀賞

PA13-090 荻原 正幸 東京慈恵会医科大学 脳神経外科 脳血管内治療部

MRSによる、脳動脈瘤コイル塞栓術後の瘤周囲MRI高信号域の解析

PA25-177 鶴見 有史 名古屋大学 脳神経外科

頸動脈プラークの質的診断と形態学的診断を用いた頸部頸動脈ステント留置術後の低血圧および遷延性低血圧の予測

PB01-214 田中 智美 早稲田大学 理工学術院

各ステントの構造の違いがもたらす留置後のステント形状の検討

PB05-239 Tsuei Yuang-Seng 東北大学大学院 神経病態制御学

Dumbell aneurysm formation involving unfused BA on vertebrobasilar junction: Experience of 8 cases with computational flow dynamics analysis

PB22-360 矢野 達也 神戸市立医療センター中央市民病院 脳神経外科

慢性血液透析患者の頸動脈ステント留置術例の検討

##### 銅賞

PA04-022 細島 理 名古屋大学 脳神経外科

光学的センサーを用いたコイル挿入力測定機器の開発

PA07-045 清末一路 大分大学 放射線科

Median anterior medullary/ anterior phontomesencephalic vein: normal MR anatomy and drainage routes from dural arteriovenous fistulas

PA24-168 足立 秀光 神戸市立医療センター中央市民病院 脳神経外科

頸部内頸動脈偽閉塞に対するステント留置術の初期成績

PB02-219 鶴田 和太郎 筑波大学 脳神経外科

Active targeting Drug delivery system を用いた血管形成術後再狭窄予防

PB03-223 日宇 健 長崎大学 脳神経外科

硬膜動静脈瘻におけるシャント部位の同定

PB14-300 三橋 立 都立広尾病院 脳神経外科

島嶼より搬送された急性期破裂脳動脈瘤に対するコイル塞栓術

PB17-324 滝川 知司 虎の門病院 脳神経血管内治療科

海綿静脈洞硬膜動静脈瘻治療の検討

PB19-333 稲川 正一 浜松医科大学 放射線科

椎弓根経路直接穿刺による脊髄硬膜外動静脈瘻に対する塞栓術の一例

PB20-343 玉川 紀之 豊橋医療センター 脳神経外科

頸動脈ステント留置術後の再狭窄進行の予知は可能か？： virtual histology IVUS を用いた検討

PB21-347 庄島 正明 自治医科大学 血管内治療部

偽閉塞および完全閉塞頸動脈病変に対する頸動脈ステント手技の工夫と成績

看護師部門

金賞 PAN1-N05 清酒 恵 先端医療センター 看護部

脳血管内治療に従事する看護師の役割～看護の視点から業務を分析する～

銀賞 PBN4-N19 水谷 映美子 三重大学附属病院 脳神経外科病棟

局所麻酔下で脳血管内治療を受けた患者の体験分析 ～未破裂脳動脈瘤患者 2 事例を通して得た気づき～

銅賞 PAN2-N06 坂井 春美 新古賀病院 脳神経センター

脳血管造影検査安静時の伸展位膝関節固定帯（ニープレス）使用の有効性について

技師部門

金賞 PBR-1 R05 能登 義幸 新潟大学医歯学総合病院 診療支援部 放射線部門

造影剤インジェクター・variable モードの開発とその被曝低減効果

銀賞 PBR2-R09 上坂 秀樹 福井大学医学部附属病院 放射線部

頭部血管 MCA 領域の血管描出における撮影体位の検討

銅賞 PBR4-R28 阿部 雅志 日本医科大学千葉北総病院 中央画像検査室

MRDSA を用いた脳動脈瘤塞栓術後の経過観察法の検討

-2 イブニングセミナー部門

金賞 ES-04 兵頭明夫 琉球大学 脳神経外科

脳動脈瘤塞栓術後の”信じられない！”合併症と会心のリカバリーショット

-3 論文賞

金賞 Ishii A, Vinuela F, Murayama Y, Yuki I, Nien YL, Yeh DT, Vinters V : Swine model of carotid artery atherosclerosis: experimental induction by surgical partial ligation and dietary hypercholesterolemia. AJNR 27:1893-1899, 2006

銀賞 Terada T, Tsura M, Matsumoto H, Masuo O, Tsumoto T, Yamaga H, Itakura T: Endovascular treatment for pseudo-occlusion of the internal carotid artery . Neurosurgery 59: 301-309, 2006

銅賞 Tanaka M, Imhof HG, Schucknecht B, Kollias S, Yonekawa Y, Valavanis A: Correlation between the efferent venous drainage of the tumor and peritumoral edema in intracranial meningiomas: superselective angiographic analysis of 25 cases. J Neurosurg 104: 382-388, 2006

## 8 広報渉外委員会および学会事務局から

1) 学会からの連絡が確実に届くよう連絡先が変わった会員は速やかに事務局に連絡してください

2) 日本脳神経血管内治療学会に関するメールアドレスは以下の通りです

学会メールアドレス jsnet-admin@umin.ac.jp

事務局メールアドレス jsnet\_service@nv-med.com (会員業務のみ)

3) 会員専用ページの閲覧にはパスワードが必要です。会員にはすでにお知らせしておりますが、学会メールアドレス jsnet-admin@umin.ac.jp にお申し込みいただければ、返信メールでお知らせ致します

- 4) 脳神経血管内治療関連のセミナー、学術集会の情報をお知らせ下さい
- 5) その他、脳神経血管内治療に関する情報をお知らせ下さい  
必要に応じて総務委員会で判断し、学会ホームページに掲載いたします

#### 資料1 事務局報告

NPO 法人日本脳神経血管内治療学会会員状況（平成19年9月30日現在）

正会員	2,194名
名誉会員	12名
（総個人会員 2,206名、会員純増 145名）	
賛助会員	3社
専門医	441名（うち指導医 83名）

#### 資料2 専門医指導医認定委員会報告

1. 第6回専門医試験が以下の要領で実施され終了した。

筆記試験：2007年2月15日（木）

口頭実技試験：2007年2月16、17日（金、土）

会場：ニチイ学館、医療機器開発センター（神戸市）

結果：筆記試験 出願 72名、受験 72名、合格 62名（86.1%）、

口頭実技試験 受験 71名（口頭実技のみ9名）、合格 57名（80.3%）

全受験者 81名、合格 57名（70.4%）

実地監査（2007年3月～8月）56名終了、未実施1名

実地監査を終了した56名が2007年9月1日付で専門医として認定され、専門医名簿に記載された（専門医番号 388～443）

2. 発足時指導医、第1回認定指導医について更新審査が行われた。

審査日：2007年2月17日（土）

会場：ニチイ学館（神戸市）

48名の申請があり、46名が更新された。

3. 第7回指導医審査について

20名の申請があり、本日（2007年11月13日）の認定委員会にて審査が行われた。

4. 今後の予定

第7回専門医試験

2008年2月28日～3月1日の日程で、神戸市ニチイ学館等で前年度と同様の形式で筆記試験、口頭実技試験を行う。

専門医・指導医資格更新審査

第1回認定の専門医、第2回認定指導医について更新審査を行う。

研修施設の認定

研修施設の認定を開始する。